

第 67 回自衛隊記念日に際しての丸山則夫駐南アフリカ共和国日本国大使メッセージ

新型コロナウイルスの脅威は依然として継続する中、同感染症に罹患された皆様にお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々に深く哀悼の意を表します。

世界中で多くの医療従事者が感染拡大の抑止に日々尽力されています。これら最前線で戦っておられる全ての方々に對し、心より感謝と敬意を表します。

そのような状況の中において、本日、我が国自衛隊は、67 周年を迎えました。

自衛隊は、1950 年の朝鮮戦争を契機に国内治安維持手段のため、警察予備隊として組織され、これを起源として 1954 年 7 月 1 日に自衛隊法の施行とともに発足しました。

これまで自衛隊は、日米同盟を基軸とし、我が国と地域の平和及び民生の安定に寄与して参りました。また、我が国の世界の平和と安定に貢献するという外交基本方針を実施するために、自衛隊の役割とそれへの期待は高まっています。

現在、我が国は、アジア太平洋からインド洋を経て中東・アフリカに至るまでの地域を一体として捉え、インド太平洋地域において、法の支配に基づく自由で開かれた秩序を確保することにより、地域全体の安定と繁栄を促進するとの観点から、「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP) の実現に向けて取り組んでいます。また、防衛省・自衛隊としても FOIP の推進に向けた各種の取り組みを行っています。

我が国にとって、アフリカ大陸の平和と安定に寄与することが益々重要になっている中、具体的な活動として自衛隊は、南スーダンにおける平和維持活動に対し人的貢献を行うとともに、ジブチにおける海賊対処支援を行っています。

南アフリカにおいては、自衛隊はこれまでに、南ア国防軍との間で、平和任務訓練センター (PMTTC) を通じた協力を行いました。引き続き、日・南ア両国による国際平和に向けた協力を推進してまいります。

日本国内においては、自衛隊は引き続き新型コロナウイルス感染症への取り組みを積極的に推進しています。最近では、自衛隊による大規模接種センターが東京と大阪の国内 2 か所に設置され、その運営が開始されました。

大規模接種センターの設置・運営は、自衛隊にとって初めての試みですが、自衛隊の高い

指揮統制能力と作戦能力によって完璧にその任務が遂行されています。国内2か所に設置された大規模接種センターには、自衛隊の医官80人、看護官200人、民間看護師200人が動員され、1日に合計で15,000人に対してワクチン接種が可能です。

5月末の同センターの運用開始からわずか1か月間で約40万人に対して接種を行う等、自衛隊は、同センターの運営を通じて新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種を促進し、感染拡大の抑止に寄与しています。

我々が感染症を克服する日の一日も早い訪れと皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念致します。

駐南アフリカ共和国日本国大使
丸山 則夫